

緑と歴史の街・所沢

埼玉県所沢市といえば西武ライオンズの本拠地であるとともに、西武線沿線の開発にともなう新興住宅地としてのイメージが強い。ところが先般、友人の案内で市内を見て回ることによって、イメージは大きく変わった。

縄文時代から人が居住し、日月神社をはじめ古くからの神社等も残る。そしてトトロの森に象徴されるように雑木林も多く、さらには日本農業遺産である武蔵野の落ち葉堆肥農法の盛んな地域でもある。まさに近代とともに、古くからのものが共存し、かつ農地と雑木林が点在する緑豊かなところだ。

市民が支える雑木林保全

こうした農地や雑木林が多く残されている背景には、地道な農家の取り組みとともに、活発な市民活動がある。案内してくれた肥沼位昌さんの家は江戸時代から続く代々の農家である。肥沼さんは所沢市役所の職員で、市民活動とし

て地域の雑木林の保全活動にも熱心に取り組んでいる。落ち葉堆肥農法で知られている三富新田は1戸当たり約5ヘクタールの面積で、屋敷・畑・雑木林の3点セットで構成されている。雑木林は下草刈り・落ち葉掃き・萌芽更新を繰り返す

使つての伐採にもあたっている。

二つの仕事を掛け持ち

この現地視察にたまたま同行したのが宮川結衣さんだ。宮川さんは「ところ産食プロジェクト」という市内及び周辺地域で頑張つて

時流を読む

多業化で進行する ソーシャルワーク

農的デザイン研究所代表 眞谷 栄一

返すことによって維持される。しかしながら、化学肥料への移行や担い手不足で手入れが行き届かず、荒廃化しつつある中、肥沼さんも仲間たちとともに、しばしば大きくなった落葉広葉樹にロープを利用して上り、チェーンソーを

いる農家と、飲食店や事業者とを結びつけることによって地産地消を推進している集まりの事務局をつとめている。宮川さんは同じ埼玉県のふじみ野市の出身であるが、所沢が大好きというところで所沢に住み、大学でも農家と飲食店

等をつないでいく仕事を目指して専攻し、勉強を重ねてきた。

宮川さんはもう一枚の名刺を持ち、西武立川駅近くにあるカット野菜を製造・加工する会社の職員でもある。聞いてみればカット野菜の会社で働いて給料をもらい、ところ産食プロジェクトの事務局はボランティアとして行っているという。二つの食・農に関係する仕事を掛け持ちすることによって、相乗効果を獲得していただくだけでなく、農家と飲食店等をつないでいくライフワークを実現している。

増えている二枚目の名刺

これは所沢での一例ではあるが、最近、いろいろの集まりで複数の名刺を出す人が増えている。いわゆるビジネスとともに、ボランティアや趣味等を両立させている人が増加している証しでもある。アベノミクスでは働き方改革の旗振りに懸命であるが、現場では政治家の認識をはるかに超えて、多業化、ソーシャルワーク化が進行しつつあるようだ。